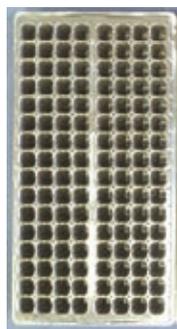


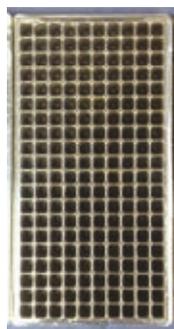
トルコギキョウの11～12月出し栽培では 育苗時のセル容積が大きいほど切り花品質が高い



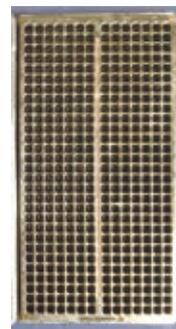
写真1 'ボヤージュ1型ホワイト'



128穴セルトレイ
(セル容積: 24ml)



200穴セルトレイ
(セル容積: 12ml)



406穴セルトレイ
(セル容積: 4ml)

写真2 各セルトレイ

表1 育苗時のセル容積の違いが苗質に及ぼす影響

セルトレイ	苗齢 (対葉)	葉身長 (mm)	生体重 (g)		抽だい苗率 (%)
			地上部	地下部	
128穴	3.3	22.5	0.9	0.7	55
200穴	3.0	17.6	0.4	0.4	0
406穴 (慣行)	2.3	10.3	0.2	0.3	0

注) 品種は'ボヤージュ1型ホワイト'。6月7日にプラントプラグへ播種し、10℃暗黒下で21日間冷蔵後、昼温25℃・夜温15℃で56日間冷房育苗。子葉展開後、液肥(10-4-8)を1,000倍に希釈して7回施用。8月23日に調査。

表2 育苗時のセル容積の違いが生育および切り花品質に及ぼす影響

セルトレイ	発蕾日 (月/日)	頂花 着花節位 (節)	収穫日 (月/日)	切り花品質			
				切り花長 (cm)	主茎からの 側枝数 (本/株)	商品 花蕾数 (個/株)	プラスチック 小花発生率 (%)
128穴	9/19	8.7	11/ 8	68.4	2.6	5.2	4.1
200穴	9/22	8.3	11/14	68.2	2.2	4.5	11.1
406穴 (慣行)	9/24	7.9	11/19	64.6	2.0	3.8	9.5

注) 品種は'ボヤージュ1型ホワイト'。10cm×10cmの6目フラワーネットを利用して、中央2条を空けた4条並木植えて定植(2013年8月23日)。昼温は気温25℃を目標に換気、夜温は15℃を下回らないように加温。なお、各区とも栽培条件は同じ。

本県のトルコギキョウの育苗には主に406穴セルトレイが使われていますが、平野部の11～12月出し栽培では、定植時期が高温であるため、切り花長が短く、主茎からの枝数や商品性のある花蕾数も減少し、ボリューム不足による切り花品質の低下が問題となっています。

そこで、11～12月出し栽培では不適とされる'ボヤージュ1型ホワイト'(写真1)を用いて、育苗時のセル容積の違いが生育および切り花品質に及ぼす影響について検討しました。

その結果、育苗時に使用するセルトレイのセル数が少ない(セル容積が大きい)ほど、苗齢、葉身長、生体重が大きい苗ができました(表1)。また、これらの苗を定植すると、早く収穫でき、なおかつ'ボヤージュ1型ホワイト'でも切り花長が長く、花蕾数の多い切り花が収穫できました(表2)。

なお、県内産地の切り花単価を基に試算したところ、販売金額は128穴セルトレイによる育苗方法によって慣行の406穴と比べて30%の増加が見込まれます。

(花き担当 門田太志 088-863-4918)